



	電気機械器具小売	6月度は全額で前年比105.2%。省エネタイプエアコンは前年比108.9%、4K・8Kテレビは前年比95%、冷蔵庫は前年比94.6%、リフォームは前年比102.8%だった。
--	-----------------	--

	食品団地	6月度商況は低調気味。食品全般としては足踏み状況の様子。価格転嫁としての商品値上げもコスト上昇を十分に補うことができていない現状があり、収益面では厳しい経営となっている。
	テントシート	原材料の高騰分の販売価格へのスムーズな転嫁が厳しい状況が続くと思われる。イベント関連事業については、コロナ禍前に回復したように思う。
	木製品素材生産	入荷量は雨も少なかったこともあり、大きな変動はなく例年並みとなっている状況。7月に入り梅雨による長雨で出材量が減少する心配がされる。また、虫害も少し始まってきており、長雨が続きと更に心配される。丸太価格については、製品の動きが悪く、依然として弱含みとなっている状況であり、今後の見通しもあまり期待できない。
	建具	新築の個人住宅及び店舗等の仕事が少ない。建材・合板単価は少し下がっているが、金物の値上がりがまだ続いている。
	製紙(家庭紙)	紙製品全体では、販売量が昨年同月比で下回っている。しかし、販売金額は前年比で少し下回ったが持ち直しつつある。衛生用紙の「その他衛生用紙」以外の紙製品は、販売金額・販売量・生産量ともに前年と同じ水準、または近づきつつある。
	製紙(手すき和紙)	売上は前月と同様、横ばいの状態。原材料などの高騰、円安の影響もあり、なかなか良くならない。物価・人件費上昇で、収益が上がらないのに負担ばかり増えて依然厳しい状況である。
	印刷	先月に引き続き売上増加、操業度上昇と良い結果となった。県内需要に関しては業績の好調な企業と低調な企業が混在しているが、県外需要に注力している企業は好調を継続している。
	コンクリート製品	対前年同月比72.5%。
	刃物製造	5月の売上が良かった分、6月は落ち込んでしまった。商品の仕上がり具合が不安定で仕方のないところもあるが、トータル的には前年とあまり変わっていない。また、4月からの値上がりにより、様子見もあるのかもしれない。
	機械団地	原材料価格や人件費上昇に伴い、売上高は徐々に増加するも、収益その他の指標は特に変化は見られない。団地内の業況は横ばいで推移している。
	船舶製造	受注・売上ともに引き続き順調。人手不足感は続いている。
	珊瑚装飾品製造	6月度の取引額は前年同月比63%となり、2ヶ月連続で前年を下回った。
青果卸売	入荷状況(前年同月比)について、野菜:数量104%・キロ単価100%、果実:数量97%・キロ単価104%。入荷数量は前年比では回復傾向にあるものの、果実は依然として100%を下回っている。業態別では量販店関係は好調、飲食店関係はやや前年度を下回っている様子。	

	生鮮魚介卸売	6月は例年に比べ約10%売上高が減少。天候も影響があるが魚の入荷が少なかった。美味しいカツオは入荷されているもののサイズが小さいように思われる。これからの期待したい。
	各種小売(土佐市)	例年、6月は1年間でも良くない月であるが、人の流れも悪く小売店には厳しい状況が続いている。
	中古自動車小売	仕入れ・販売・収益面に関しては先月同様厳しい状況が続いている。販売面では人手不足による影響が懸念点となっている。
	商店街(高知市)	駐車場利用台数は前年の108.2%(1,922台増加)、料金収入は前年の107.6%(593千円増加)。6月については、土日の日数が前年より2日多く駐車場の利用台数は対前8.2%増となった。免税売上については対前13.1%増加でした。6月29日(土)から第50回土曜夜市がスタートし商店街全体で賑わいがあった。
	商店街(四万十市)	材料・電気代の値上げが度重なり、大きな波となって各業種にのしかかっている。人員不足で定休日を増やす個店もある。
	旅行業	組合クーポン前年同月対比:88%、全旅クーポン加算後 前年同月対比:110%。「どっぷり高知旅」キャンペーンに因んだ、高知県内観光コース造成に組合員と共に取り組んでいる。
	IT事業	物価上昇に伴う人件費の高騰や経費負担の増大が深刻な影響を及ぼし、期末決算益が予算に対して大きく下回った(売上も前年比減)。一方、AIの活用など新技術や新サービスが急速に広がる中、情報格差が懸念されている。このような状況下で、組合のメリットを最大化するために結束し、助成金や補助金の活用、相互補助を推進したいと考えている。さらに、AIや他の最新技術の情報に関する教育や研修を通じて、組合員全体のスキル向上を図る努力も重要だと考えている。
	クリーニング	料金改定(値上げ)が浸透して売上高は上昇したが、点数減少に歯止めがかからない。物価・エネルギー・資材価格の上昇は続いているが、更なる価格転嫁は難しい。リネン、ユニフォーム関係は堅調だが、ホームクリーニングは苦戦している。雇用難・労働力不足により、営業時間減少・規模縮小に転じる企業もある。
	電気工事	組合員の施工する電力引込線工事は、前年同月比39.9%となった。このところ、対前年を大幅に上回っていた反動で大幅な減少となった。特に、高知中央地区が76.8%減少となった影響が大きい。
	タクシー	実働1日1車当りの前年同月比運送収入:104.3%、運送回数:97.1%、実働率:50.4%。需要が増加傾向にあるものの、業界の喫緊の課題がドライバー不足であることが残念。

	酒類製造	厳しい状況が続いている。輸出の復活にも至っていない。
	製材	戸建て住宅需要については当面厳しい状況が予想されており、プレカットに関しても減少傾向が見込まれる。
	生コンクリート製造	6月度の全組合員の出荷量は、対前年比94.0%であった。また、4月からの累計出荷量は、対前年比85.0%で若干持ち直し傾向にある。地域的には、高知市内を中心とした中央地区での出荷減少が顕著である。
	卸団地	販売価格の上昇による影響で、取引量が減少する状況になる取引先は少ないが、市場縮小の影響により、予定した売上よりも少ない状況が続いている。景気回復は感じられない。
	ガソリンスタンド	6月の原油価格は円安もあり、上昇気味だが補助金のおかげで若干の値上がりに留まっているが、政府はこの補助金を12月末までの延長とした。6月末の補助金額は24円/Lとなっており、予定通り12月末で終了であれば12月末までに補助額が0円近くまで下がらないと正月から販売価格は大幅値上げとなる。冬場は灯油の使用量が増えることから買いだめが発生し、年末のガソリンスタンドはパニックになると懸念しているが、おそらく秋頃には政府から出口戦略等の発表があるのではないかと予想している。
	商店街(安芸市)	6月30日(日)に農林商福と連携し「軽トラマルシェ」を開催。ナスの詰め放題のほか、商店街や地元事業所・JA女性部・キッチンカーなどが出店。あいにくの雨のせいか、例年に比べ来場者は少なかったが、来場者には楽しんでもらえた。
	旅館・ホテル	団体客は少ないが個人の需要は堅調。人手不足もあり宴会等は予約のコントロールが必要。
	飲食店	当月の売上高は前月に引き続き前年同月を下回った。コロナ禍以前との売上比較は約8割~9割。県中心地から離れた東部や西部では特に状況が悪い。前年度同月に比べ、光熱費や仕入れ価格は高騰し人件費も上昇している。それに対して業界の価格転嫁は十分ではない。
	一般土木建築工事	令和6年6月分の県下の生コンクリート総出荷量は、前月比115.6%、前年同月比94.0%。そのうち、共同販売事業に係る出荷量は14379.56m ³ と全体の31.43%と低調。災害復旧工事、防災・減災対策工事、高速道路の延伸工事などの大型工事については継続しているが、高速道路の整備以外に大型工事が見込めない状況。生コンクリート販売単価については、主に賃金アップの原資としてm ³ 当り1,000円の値上げを5月契約分より実施。また、小型車搬送についても値上げ実施。値上げ分の積算単価反映は、秋までを目論んでいるが流動的。また、高知市の組合再生については進行中であるが、具体的な進展は未だ見えない状況。
	一般貨物自動車運送	円相場は37年ぶりに160円/ドル台となり燃料価格に大きな影響を与えている。政府補助金は延長が決まったが、高値で推移していることには変わりなく、さらに、追い打ちをかけるように荷動きも悪くなっており組合員企業の経営は厳しいものとなっている。